

■今月の特選句

2015年9月

■キャンピングカー乗り回す蝸牛

柳 紅生

誰も気付かなかったことを描くと、それだけで秀句となる。「キャンピングカー蝸牛が乗り回す」とすれば風景がより明確になる。

■色々な靴の臭さや夏休み

久我正明

靴の臭さを句にした俳人はいない。気付いていながら、誰も句に詠まなかった風景を描いて秀句となった。俳句の俗を実感させる句。

■ぶらさがるだけの拷問糸瓜棚

小林英昭

俳句は精神史。小林君は糸瓜を凝視して拷問を受けていると感じた。発想を盗作しちゃおう。「座すだけの拷問西日の窓際族」。

■カレンダー捲るも秋の見当らず

奥脇弘久

この句の「秋」は季語ではないが、滑稽句の枠をひろげて特選とした。またまた、盗作しちゃおう。「歳時記をめくれば跳び出し毬の栗」。

■昇降機下りごとくに夏終る

金澤 健

実感を素直に書けば、ひらめきの句ができる。金澤君は滑稽俳句大賞を二年連続受賞しているが、常に頭の中を空っぽにして発想。

■木の股の大きなふぐり秋の月

氏家頼一

滑稽はどこにでも転がっているものである。月をふぐりにした句は初めて見た。「木の股」「ふぐり」と俗な言葉を連ねて滑稽感十分である。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

画面には噴火のニュース秋刀魚焼く ・・・焦げる臭いの新型テレビ	有富洋二
終戦日平和のために戦争す ・・・弾にあたれば本末転倒	稲沢進一
火の車回る我が家に大西日 ・・・夜はこれまた熱帯夜とか	伊藤浩睦
枝豆の弾けてとんだ不仲の日 ・・・もとの莢には収まり難し	井口夏子
これがまああのマドンナか敬老日 ・・・がっかりしたり安心したり	横山喜三郎
夏痩せの画像見る医師顔を見ず ・・・がっかりしたくないだろうよ	井野ひろみ
秋扇はたく骨皮筋右衛門 ・・・扇の骨のごとく浮く骨	笠 政人
間を置いて駄洒落の効きし良夜かな ・・・間を置きすぎて有明の月	菅野あたる
妹のなき恠しさの糺祭忌 ・・・書物散らかすぐらいはできる	西をさむ

A面もB面もずっとずっと夏

・・・娘まどから春野を眺む

藤森荘吉

晩酌はたつた一本もつてのほか

・・・吝嗇せずにもつてこいほかを

田村米生

焼きそばのひとつを五人祭の夜

・・・仲好し家族静い夜

三橋百笑

西成の盆踊監視されたる

・・・お回りさんも輪に入り踊れ

田中 勇

■今月の滑稽句

- | | |
|---|-------------------------|
| 【佳作】 敬老日持たされている迷子札
ダイエットリバウンドする豊の秋
生身魂あの手この手の詐欺師かな | 青木輝子
青木輝子
青木輝子 |
| 秋暑し虫いくつまで成長期
【佳作】 農無惨あまた草ある稲田かな
日にちや拈華微笑(ねんげみしょう)の百日紅 | 青山桂一
青山桂一
青山桂一 |
| 【佳作】 二丁目の雀の滑るさるすべり
入道雲と呼ぶは今日まで他色々
ライトバックライトバックの敗戦日 | 赤瀬川至安
赤瀬川至安
赤瀬川至安 |
| 天然の涼を求むに汗かいて
跳びついて球をキャッチすさわやかに
【佳作】 小さな秋に向かって深呼吸する | 秋月裕子
秋月裕子
秋月裕子 |
| 【佳作】 金魚藻の揺れに気泡のしがみつき
尾瀬の雨上がりあちこち破れ傘
六年の先を信じて蟬しぐれ | 麻生やよひ
麻生やよひ
麻生やよひ |
| 鯊釣りのところどころやおほあくび
【佳作】 敬老会クルマころがし駆けつける | 有富洋二
有富洋二 |
| どう見ても妻とは違ふ盆踊り
流れ星願ふ間もなく消えにけり
【佳作】 見上げては下戸のうらやむ酔芙蓉 | 有吉堅二
有吉堅二
有吉堅二 |
| 耳鳴りのリズム変わりし良夜かな
反り返り居丈高なりきゅうりの値
【佳作】 何やらが爆発しても良夜かな | 粟倉健二
粟倉健二
粟倉健二 |
| 鳴子など恐れはしない村雀
金色に輝く竹を伐り倒す
【佳作】 刀鍛冶目利きを買はれ秋刀魚選る | 飯塚ひろし
飯塚ひろし
飯塚ひろし |
| 【佳作】 みずみずしい時間失ふ大西瓜
風鈴の無口を風にあたりけり | 井口夏子
井口夏子 |
| ママは蝶子は蛇蛙夏を追う
【佳作】 水着跡白々と残し夏終る | 池田亮二
池田亮二 |
| 朝顔に小便掛けて男の子かな
【佳作】 鈴虫を死なせ水虫飼ひにけり | 伊藤浩睦
伊藤浩睦 |
| 百人円腹が鳴るなり鯛缶
五匹づつ孵り十二羽の燕帰る
【佳作】 同窓の面の顔剥ぐ芋煮会 | 伊藤洋二
伊藤洋二
伊藤洋二 |
| 優しさのすこし強気のサングラス
【佳作】 とんぼとんぼよ少年に戻ろうか | 稲沢進一
稲沢進一 |
| 【佳作】 秋刀魚焼く無煙無臭のグリルかな
セルフなり梨口く夫の器用なる | 井野ひろみ
井野ひろみ |
| 【佳作】 武器となる女の涙と蟬の尿(しと)
台風を拍手で迎へ小学生
汗だくのカメラマンとなり運動会 | 上山美徳
上山美徳
上山美徳 |
| 【佳作】 鼻に垂る露拭はばや石仏
蛤となつて減りしか寺雀 | 氏家頼一
氏家頼一 |
| 【佳作】 奥の手の粘りで勝負モロヘイヤ
故郷やおでこに岩清水滴らし
平和を祈る背中の丸し蟬しぐれ | 梅岡菊子
梅岡菊子
梅岡菊子 |

- | | |
|---|-------------------------|
| 買ひ手待つ松茸強く匂ひけり
わが暮し蓑虫のごと風まかせ | 越前春生
越前春生
越前春生 |
| 【佳作】 良い顔と思へぬ踊り上手かな | |
| 婚活へネクタイ選ぶ今朝の秋
オシャレして嫁が乗り込むコンパイン | 岡野 満
岡野 満
岡野 満 |
| 【佳作】 たらればの未練がましき夜長かな | |
| 【佳作】 孤独死も又尊厳死秋高し
天国から盆に返った仏なし
次世代の貴重蛋白芋虫かな | 小川鮎太
小川鮎太
小川鮎太 |
| 【佳作】 蛸にその日暮らしを励まされ
秋茄子値札書き替へ客を待つ | 奥脇弘久
奥脇弘久 |
| 【佳作】 長き夜の同床同夢ピンコロリ
本物の孫の手が欲し敬老日
ご先祖も口ひん曲げて青蜜柑 | 加川すすむ
加川すすむ
加川すすむ |
| 【佳作】 幽霊の歩みとなりて生身魂
スマホーン秋暑の街を闊歩する | 笠 政人
笠 政人 |
| 【佳作】 溜め息を長々と猫秋の雨
早生蜜柑スプリングラーへお辞儀かな
霧の島昔遠島今橋桁 | 加藤澄子
加藤澄子
加藤澄子 |
| 【佳作】 雨蛙両手着いてのお出迎え
人生は何時か花咲く百日紅
我が家にも月下美人が久々に | 門屋 定
門屋 定
門屋 定 |
| 【佳作】 えびす顔母は隠さず休暇明
魂迎デーサービスの一種かと | 金澤 健
金澤 健 |
| 【佳作】 老鶯のおどけ音色にのりにけり
日中やややほろよいの酔芙蓉
ラベンダーをカレンダーと云ひはる子 | 川島智子
川島智子
川島智子 |
| 【佳作】 英単語暗記の寄り目天高し
こだわりの青汁にがき敬老日 | 菅野あたる
菅野あたる |
| 【佳作】 浮気妻海月のやうな言ひ訳す
あの人も海月も私も海月かな | 久我正明
久我正明 |
| 【佳作】 真昼間の天文台に秋の声
きちこうの蕾爆発まちかなり
ヒーローに変身したる兜虫 | 工藤泰子
工藤泰子
工藤泰子 |
| 【佳作】 特別な句転び出よ俳句の日
環状線三回廻れば昼寝覚め
蚊を叩くこれ殺生と言ふべきや | 小泉花子
小泉花子
小泉花子 |
| 【佳作】 一度しかのせてはくれぬ茄子の馬
敬老の日のリポビタンDいっき飲み | 小林英昭
小林英昭 |
| 【佳作】 終戦日などをつくろう敗戦日
地球儀をたよりに北京競技会
走馬灯あばれ仏の怒りかな | 酒井鹿洋
酒井鹿洋
酒井鹿洋 |
| 【佳作】 仏壇の顔色見ての菓子盗人
素っ頓狂女心と秋の空
傘たたみ雷鳴遠く小走りに | 佐藤義子
佐藤義子
佐藤義子 |
| 【佳作】 彼岸待たず台風秋を呼び込めり
望月も集中豪雨の雲の上
「それから」が大詰秋の「門」に入る | 佐野萬里子
佐野萬里子
佐野萬里子 |

生姜好きしようがないねと言ひ給ふ 釣銭はあるのでしょうか愛の羽根 【佳作】 すらすらと毒ある言葉鳥兜	下嶋四万歩 下嶋四万歩 下嶋四万歩
【佳作】 大人びた乙女の胸の夏終る 万歩計涼はコンビニをはしごかな 焼き鮎の齧るを止めるラブシーン	壽命秀次 壽命秀次 壽命秀次
反れば反り下がれば下がる踊の輪 強面隠してしまふサングラス 【佳作】 風鈴の音色ふるさと納税す	白井道義 白井道義 白井道義
好き きらい 花ビラは多い方がいい 四捨五入したら生きて行けそう 【佳作】 糸電話 通じたころも有ったんだ	鈴木和枝 鈴木和枝 鈴木和枝
【佳作】 飼い猫の何食わぬ顔翳雲 天引きも釣瓶落しか朝一番 栄光はおとぎ嘶や敬老日	高田敏男 高田敏男 高田敏男
【佳作】 送り火を一日早め旅に出る 曲者を捕らへてみれば女郎蜘蛛 風貌もどこか似てをり河童忌や	高橋きのこ 高橋きのこ 高橋きのこ
【佳作】 ひやとひの踊の輪広まりにけり 盆踊暴動のへんぼうなるや	田中 勇 田中 勇
貧者にも富者も同じ揚花火 机上には未完の宿題法師蟬 【佳作】 丈夫さうのみ言はれをり日焼婆	田中早苗 田中早苗 田中早苗
桃二つ食べて今夜の夢期待 【佳作】 まだ招待されたくないの敬老日	田村米生 田村米生
運動会我が子の顔だけ大写し 一等賞皆でゴールの運動会 【佳作】 孫一人一族のスター運動会	津田このみ 津田このみ 津田このみ
一度逢ひ添ふ一生や夜の秋 【佳作】 友らみな愛妻介護敬老日 賜りし平和危ふし敗戦忌	飛田正勝 飛田正勝 飛田正勝
【佳作】 胸ボタン一個はずして秋の風 満腹だ案山子に雀一休み 電線にドレミドレミの稲雀	中井 勇 中井 勇 中井 勇
我をねらふ鉄砲百合の蕾あり 棒切と見ればスタコラ断鰯なり 【佳作】 それにしても蛇よそなたは長すぎる	新島里子 新島里子 新島里子
越中の風雅を乗せて風の盆 【佳作】 予報士の眼いきいき台風裡	西をさむ 西をさむ
泡沬えて残暑知らずのビールかな 【佳作】 とんぼうの種類も数も減りにけり 秋場所は軍配独占法師蟬	花岡直樹 花岡直樹 花岡直樹
帛省して座敷童を放ちけり 秋彼岸卒塔婆小脇に墓探す 【佳作】 敬老日けふ老人となる知らせ	原田 曄 原田 曄 原田 曄

- | | | |
|------|---|-------------------------|
| 【佳作】 | 芸妓からお嬢と呼ぼる秋祭
一匹の蚊と闘へど勝ち目無し
母親の雨垂れピアノ敬老日 | ひがし愛
ひがし愛
ひがし愛 |
| 【佳作】 | 朝冷えやこむら返りてふ拷問に
入院に認知テストや秋の空
すさまじや血液五本採りますと | 久松久子
久松久子
久松久子 |
| 【佳作】 | くるぶしを手で温めむ夜の秋
指折つて秋の七草言うてみる
禾偏は穀物のこと九月かな | 日根野聖子
日根野聖子
日根野聖子 |
| 【佳作】 | 渾身のストレス赤の西瓜割る
八月の供花に額突くこと数ふ
やや寒の童話目通すきざりす | 藤岡蒼樹
藤岡蒼樹
藤岡蒼樹 |
| 【佳作】 | つゆだくの牛井に汗だくとなる
これはその知る人ぞ知るかき氷 | 藤森荘吉
藤森荘吉 |
| 【佳作】 | 伸びてみる縮んでもみる熱帯夜
百万ドルの夜景に酔ひしか虫の声
秋立つと鬼籍の人に告げにけり | 藤原セツ子
藤原セツ子
藤原セツ子 |
| 【佳作】 | 朝顔に絡みつかれて目覚めたる
残暑かと思えばうすら寒き朝
税喰いが離合集散秋の陣 | 細川岩男
細川岩男
細川岩男 |
| 【佳作】 | 普通では見せぬ北京の秋の晴れ
頬撫でただけで過ぎ去る秋の風 | 細川寛子
細川寛子 |
| 【佳作】 | 行き止り日本海の秋没日
稔り田や坂東太郎に呑み込まれ | 細川寛子
松井寿子 |
| 【佳作】 | 何しても旅の楽しき九月来る
純白や母が植えたる酔芙蓉 | 松井寿子
松井寿子 |
| 【佳作】 | 五体投地してみたくなる涼新た
濡れそぼつ案山子裸にされてをり
糞虫も見世物としてデバ地下に | 松井まさし
松井まさし
松井まさし |

- | | |
|--|----------------------|
| 子と遊ぶ爺は磯に這ひつくばる | 三橋百笑 |
| 【佳作】 剪定の拳句は妻の言ひなりや | 三橋百笑 |
| 【佳作】 犬猫の墓地の賑はひ秋彼岸
訥弁と饒舌のみる長き夜
黒牛のよだれをなめる秋彼岸 | 宮森 輝
宮森 輝
宮森 輝 |
| 真白なるページ埋まらず涼新た | 百千草 |
| 【佳作】 天の川君の未来に吾はをるか
月天心私の中の司令塔 | 百千草
百千草 |
| 秋風を急がせている暗い雲
途切れる命のリレーや秋の海 | 森岡香代子
森岡香代子 |
| 【佳作】 今ですか天地を跨ぐ秋の虹 | 森岡香代子 |
| ひとつでも十分辛い唐辛子 | 八木 健 |
| 【佳作】 甚平を制服として余生かな
片耳を遠雷に置く会話かな | 八木 健
八木 健 |
| 施餓鬼会の誑経に合せ孫踊る
運動会ひとりの孫に総動員 | 谷澤紀男
谷澤紀男 |
| 【佳作】 冷ややかや接待終へてひとり酒 | 谷澤紀男 |
| 【佳作】 熱中症季語にはなくて日射病
ファックスの送信エラー残暑かな
我は死火山のままなり敬老日 | 八洲忙閑
八洲忙閑
八洲忙閑 |
| 【佳作】 あの世への目を慣らしをくサングラス
ビルダーのやうな体型かぶとむし | 柳 紅生
柳 紅生 |
| 頭に一撃猫の犬歯か秋夜長
サンマ漁テレビ画面にジャンプ猫 | 柳澤京子
柳澤京子 |
| 【佳作】 教養人になれぬこのまま秋逝くか | 柳澤京子 |
| モノクロに針音響き夜の秋
包まれて時空さまよひ蟬時雨 | 山下正純
山下正純 |
| 【佳作】 せつちんや結界越へて蚊帳の外 | 山下正純 |
| 老いの身をさらわれまいぞ颱風に | 山本けい子 |
| 【佳作】 蠅一匹二日掛りの捕獲かな
棚経や寺の跡継ぎ無いと言ふ | 山本けい子
山本けい子 |
| きれぎれにちあきなおみや夏が逝く | 山本 賜 |
| 【佳作】 晩夏かな泡の中なる私の手
秋涼しティッシュペーパーやはらかし | 山本 賜
山本 賜 |